

報告者：徳堂（就労支援室）

## 令和6年度 第2回台東区障害者地域自立支援協議会（就労部会）報告

### 1 開催日

毎月第3水曜日 17:00~18:30

5/15、6/19、7/17、8/21 4回（リモート開催）

### 2 検討した内容

#### （1）令和6年度検討テーマについて

就労系福祉サービスの利用を検討している当事者やご家族から、区内事業所の詳細や、サービスの利用の仕方がわからないという相談を受けることがあることから現在の「就労支援の流れ」と「就労支援ガイドブック」について見直しを行うこととした。

「就労支援の流れ」については、福祉サービス利用の条件をはじめ、特定短時間雇用や一般就労と就労系障害福祉サービスの併用について等、当事者やご家族の視点に立ち、わかりやすいものに作り直していく。

また、本年5月には新たにPC・Webに特化した就労継続支援B型事業所が開設されたこともあり、区内の就労支援事業所を紹介した「就労支援ガイドブック」について、幅広く就労支援事業の周知に活用していけるよう内容の検討を進めている。

さらに、今後の支援機関等への情報共有方法についても検討を進めていく。

#### （2）講演会について

各委員より、人材確保（職員や利用者の両方）、余暇支援の情報、特定短時間雇用のメリットとデメリット、障害者雇用で企業が求める人材（レベル）を知りたいとの意見があがった。

現在は、週に最短15分から一般企業・職場で特定の職務を担当して働くワークスタイルを実現する雇用・労働モデルである「超短時間雇用」に関する内容で検討を進めており、2月に開催予定である。

#### （3）勉強会

##### ◆5月 困難事例（就労支援室）

30代後半・反復性うつ病性障害

##### <課題>

- ・事前に言われていないことや苦手な方からのアドバイス等を被害的に捉えてしまう。
- ・苦手な方との距離間が上手くとれない。
- ・社内において自分が信頼をおけると思った方以外になかなか業務の相談ができ

ない。

- ・就労面で、発達障害の特性を強く感じるところがあるが、本人は理解できない。

#### <部会員からの意見>

- ・本人の興味のあること、得意なことを認めてあげることから信頼関係を築くことが大切ではないか。
- ・障害受容が難しい方に対して、発達診断の簡易診断アプリを利用するところから進めていくのはどうか。

#### ◆6月 困難事例（就労継続支援B型事業所/つなぐ台東）

##### 30代後半・知的障害（ダウン症）

父が逝去し母と二人暮らし。父子分離ができていなかった節あり。

#### <課題と対処>

- ・周囲の利用者の様子を見て、本人の能力よりも低い目標（作業所を休みたい、作業への低いモチベーション）に気持ちが移ってしまっている様子が見られる。そのため、5月後半より、週5日のうち1日を他のフロア（作業ペースがより速い）での活動とすることで、本人への良い影響を期待している。
- ・特定の利用者と仲良くしたい気持ちがあるが、過去に距離を縮め過ぎてしまい、現在は敬遠されている。その現状を受け入れきれず、不満を抱えている発言が目立つ。そのため、本人が懇意にしたい利用者には、本人に対して最低限の挨拶はするよう職員から伝え了解をもらった。

#### <部会員からの意見>

- ・母への依存が強い方で、母が急に入院した際、父との関係性がうまく取れず困り、第三者（ヘルパー）に同行援護に入ってもらったケースがあった。
- ・利用者間のトラブルはあるが、メンバー同士の相互理解ができるだけ生まれるよう、話しをするようにしている。
- ・距離感など、一方的に近づいて相手が引いてしまうこともあるので、できるだけ嫌だと感じた人から本人に直接気持ちを伝えてもらうようにしている。伝え方は一緒に考えたりするが、職員が間に入ってよいときと、あまりよくないときがある。できるだけ当人同士で解決できるように職員が入りすぎないようにサポートをしている。
- ・親亡き後の変化、生活面での支障がでてくる。グループホームに入寮してもらい、できるだけ自立できるよう促している。
- ・根本的な解決にはならないが、なかなか踏み込めず、解決しないケースも見られたため、波長が合わない利用者がある場合、違う仕事や部署になるよう配慮している。

#### ◆7月 困難事例（就労移行支援事業所/ありがとう）

##### 20代前半 知的障害・広汎性発達障害

両親、兄といっしょに台東区外のマンションにて同居。

#### <課題>

- ・親亡き後のことをどう考えるか。兄との関係はあまり良好ではない。兄は「親に何かあれば自分が面倒を見る」とは言っているものの、言葉通りになるのか。
- ・今後も企業側と保護者がうまくやっていると限らない。
- ・軽度知的のため、本人が職場支援者や親に体調不良や何か助けを求めることが難しい。
- ・無口で真面目さが裏目に出てしまい、怖がらせてしまう。  
本人は、自分が話し始めてしまうと羽目を外してしまうことを理解しているため、仕事の際は、極力口を開かず黙々と作業をしている。そのため、怖いと誤解されてしまう。保護者と支援者は本人にアドバイスを行っているが、職場支援者はアドバイスをどうすべきか考えあぐね、保護者と支援者に問題を投げ込んでくるのみである。

#### <部会員からの意見>

- ・台東区でいえば、あさがおのような支援センターでの一般相談、フリースペース等を利用するのはどうか。
- ・相談支援事業所からサービスにつながるというパターンがあると思う。

### ◆8月 困難事例 (就労継続支援B型事業所/えん(かれん))

#### <課題>

関係者から金銭管理に関する具体的なアドバイスをして、本人の希望に沿わないことは「そんなの無理です」と聞く耳を持たない。事業所としては、家族が手を引き、実際に貯金が底をつかなければ現実的に捉えられないだろうと見立てのため様子を見ている状況だが、他に手立てはあるのか。

#### <部会員からの意見>

- ・金銭管理の相談は何件かあるが、親が助けているうちはなかなか難しい。
- ・本人のお金が尽きて、家族からの支援のみになり、必然的にそれだけしか使えなくなるのが一番。同様の問題を抱えた人に、家族と相談しながら支援はするもののなかなか難しい内容だと思う。
- ・自分がどれだけ使っているのか把握しているのか。レシートを元に収支を確認させ、本当に必要なものかどうかを考えさせるなど、目に見える形で理解してもらう方が早い。
- ・一週間単位で収支を出すことを1か月続け、残額を封筒貯金している人がいる。
- ・東京都生活再生相談窓口(飯田橋)へ、借金がある人や生活を立て直したい人に同行したことがある。

### 3 今後のスケジュール

- ・令和6年度の検討テーマ、ガイドブックや支援の流れの作成に向けた検討。
- ・講演会の検討、実施。
- ・勉強会(事例検討会)実施。